PICK UP授業

3年次では、社会基盤工学と環境工学に関する演習・実習や実験を行います。これらを行うことにより、講義で習った理論などをより深く理解できるようになります。

情報処理演習

土木構造物の設計に用いる構造解析は、近年はパソコンを用いて実施されるのが一般的です。そこで、本授業では、構造力学の講義授業と対応して、実際にパソコンを用いて構造解析を実践的に演習することを目的としています。本授業の内容は、卒業生の多くが就職する建設業界では、応用プログラミングも含めて多用される内容であるため、単純に計算を行うだけでなく、いかに計算内容・結果を分かりやすく表現するかが大きなポイントと考えています。

Teacher's Voice

◀社会環境工学科
谷口 望 准教授

土木構造物の設計・施工から維持管理に至るまでの様々な研究を行っています。過去に民間企業に勤務し、設計基準作成や設計審査、建設工事監督を行った経験を活かして、より実用的な研究を行うことを信条にして、世の中に幅広く貢献できる人材を育成することを目指しています。

測量学Ⅰ・Ⅱ

橋梁やトンネル、ビルなどの建設を行う場合、最初に行われる作業が測量です。建設地の面積や起伏、盛り土量などを正確に把握する必要があります。測量学Ⅰでは、測量の概念、誤差の合理的な処理方法等を解説します。また器具および器械の仕組みを理解し、結果の出し方を学びます。測量学Ⅱでは、測量学Ⅰの知識をもとに路線測量・河川測量・地形測量などに加えて、GNSS測量・リモートセンシング・GISの基本について講述します。

Teacher's Voice

◀社会環境工学科
平川 隆一 准教授

社会資本の整備や自然環境の保全に取り組むためには、土木工学の基礎である測量の役割を理解しなければなりません。測量の講義と実習では、古くからの測量方法に加えて、近年の計測技術も学修し経験することで、建設・環境・防災・行政等の現場で実践できる技術者となることを目指します。

将来について

取得可能な資格

- 土木施工管理技士
- 労働安全コンサルタント
- 造園施工管理技士
- 労働衛生コンサルタント
- 技術士・技術士補
- 環境再生医初級
- 測量士・測量士補

卒業後の主な進路

- 本学または他大学の大学院進学
- 建設関連企業（総合建設会社・建設コンサルタント会社など）
- 環境関連企業
- 鉄道・エネルギー関連企業
- 県庁・市役所など公務員　ほか